

議会だより みなかみ



臺南市議會 水上町議會 友好交流協定締結儀式



台南市議會・みなかみ町議會
両市町のさらなる発展



第8回 中学生議会開会

10月15日に中学生議会が開会され、みなかみ中学校の生徒代表6人が一般質問を行いました。

MACNAMARA HANA

通告 【福祉・医療】
水上地区の無医師解消について

Q 医療施設の設置と町出身の医学部学生への奨学金制度が有効と考えるが。

A 過疎地域の地域医療の充実のため、診療所開業に向けた努力と、若い世代の医療従事者が町内で活躍できる環境整備やシステムづくりを考えたい。

原澤 杏佳

通告 【子育て・教育】
廃校の利用について

Q 小学校統合により廃校となる施設を、子育て支援に活用することは。

A よいアイデアの一つ。町民のニーズを把握し、他の事業での利活用との関係などから総合的に検討していきたい。

飯野 颯介

通告 【観光・まちづくり】
観光施設の見直しと人材育成について

Q 発展のため、施設やイベントの改善、町の魅力に気づきアピールできる人を育成することが大切だと思うが。

A 多くのお客様にきていただけるよう参考とさせていただき、取り組みを進めていきたい。

ミックガワン 素海

通告 【環境・農業・くらし】
有機農産物のブランド作成について

Q 「みなかみスタイル」のモットーを進化させて有機農産物を販売するには。

A みなかみ町公認ブランドを大々的に広めるため、広報や販路の拡大・流通の仕組み作りに予算を使っていく。

森下 晃利

通告 【福祉・医療】
商品券配布について

Q エネルギーの価格高騰や物価高対策、経済の活性化に有効と考えるが。

A 直接的支援として、即効性があり有効な手段。高齢者の利用に配慮しつつ、地域経済を元気にするための施策を進め、安心して暮らせる町づくりに貢献していきたい。

井浦 遼

通告 【子育て・教育】
公園の設置場所と管理について

Q 改善に重要なことは「多くの人が集まる場所に公園をつくる」、「手入れをしやすい状況にする」ことだと思うが。

A 公園設置や管理についての考え方、大変参考になる。今後の検討の視点に加えていきたい。



台南市議会・みなかみ町議会 友好交流協定を締結

11月20日、台湾・台南市議会ホールにおいて、台南市議会とみなかみ町議会は友好交流協定を締結しました。調印式では、みなかみ町議会の小林洋議長と台南市議会の邱莉莉（チウ・リィ）議長が署名を行い、阿部賢一町長と黄偉哲（コウ・イテツ）市長が立会人として署名を行いました。その様子は、みなかみ町関係者や台南市議会議員、台南市旅行同業商業公会の総勢80名を超える参加者が見守る中で盛大に執り行われました。協定書への署名後は、今後の交流への期待から和やかな雰囲気で参加者同士が交流を深めていました。

2013年12月に締結されたみなかみ町と台南市の友好都市協定や2023年4月にみなかみ町観光協会と台南市旅行商業同業公会が結んだ友好協定。これまでマンゴーを介した交流や中学生の海外派遣事業、双方による観光を通じた交流が行われてきました。10年以上にわたる交流を伴走してきた両議会も、本協定締結により両市町の経済・教育・スポーツ・文化など幅広い分野での発展と協力をを目指し、信頼と尊敬を基盤に友好関係の深化に努めることを確認しました。



12月議会あらまし

12月2日から10日までの会期で12月定例議会を開いた。報告4件、承認1件、契約2件、条例7件、指定管理5件、その他4件、補正予算1件、発議1件を審議した。一般質問は7人であつた（6～13頁）。

12月定例議会議案及び議決結果

議案番号		議案内容	議決結果
報告	第 13 号	損害賠償の額の決定及び和解の専決処分報告	全会一致承認
	第 14 号	損害賠償の額の決定及び和解の専決処分報告	
	第 15 号	損害賠償の額の決定及び和解の専決処分報告	
	第 16 号	令和7年度カルチャーセンター改修工事請負変更契約の専決処分報告	
承認	第 8 号	令和7年度一般会計補正予算（第3号）の専決処分報告	賛成多数可決 12:1
議案	第 81 号	令和7年度道路メンテナンス補助事業町道藤原102号線宝川橋撤去工事請負契約の締結	全会一致可決
	第 82 号	令和7年度町立小中学校学習者用情報端末購入契約の締結	
	第 83 号	税条例の一部を改正する条例	
	第 84 号	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例	
	第 85 号	放課後児童クラブ設置及び運営等に関する条例の一部を改正する条例	
	第 86 号	奈良俣サービスセンター条例を廃止する条例	
	第 87 号	相俣ダム周辺レクリエーション施設条例の一部を改正する条例	
	第 88 号	都市公園条例の一部を改正する条例	
	第 89 号	学校給食センター条例等の一部を改正する条例	
	第 90～94 号	指定管理者の指定	
	第 95 号	群馬県市町村公平委員会共同設置規約の変更に関する協議	
	第 96 号	群馬県市町村総合事務組合の規約変更に関する協議	
	第 97 号	群馬県市町村総合事務組合の災害弔慰金の支給等に関する事務に係る共同処理の取り止めに伴う財産処分に関する協議	
	第 98 号	利根沼田地域定住自立圏の形成に関する協定の一部を変更する協定	
	第 99 号	令和7年度一般会計補正予算（第4号）	
発議	第 3 号	議員派遣の件について 議会DX研修会に全議員を派遣するもの	

陳情

委員長・議長は採決に加わりません			
件名	陳情人	付託委員会及び審査結果	本会議審査結果
第3号 受験生への予防接種費用助成に関する陳情書	沼尻 静	総務文教厚生常任委員会 全会一致 趣旨採択すべきもの	全会一致 趣旨採択

議案第81号 令和7年度道路メンテナンス補助事業町道藤原102号線宝川橋撤去工事請負契約締結について

反対 鈴木美香 議員

契約の相手方には一切の不備不足はない。反対するは契約の工事内容。総事業費が約8000万円、国庫の道路メンテナンス事業補助支援として約55%で約4400万円ほど、残りの3600万円ほどが一般財源や起債等、町の持ち出しとなる。経費の削減を目指すため、この契約の根本部分である2工区の除去対象に對し、橋脚撤去部分を除いたRCT桁橋のみの除去事業とすべきであり、工事内容の再考を求め、今請負契約の締結に反対する。

補正
総額 166億1196万円
補正額 5億2746万円

（端数処理あり）

歳出

ふるさと納税推進事業……………8964万円
防災行政無線整備事業……………1935万円
月夜野給食センター管理運営事業…1億8500万円
その他……………2億3347万円

歳入

普通交付税……………4017万円
ふるさと寄付金……………2億円
ふるさと応援基金繰入金……………9150万円
その他……………1億9579万円



群馬県町村議会議員研修会
11月5日（水）、玉村町文化センター
活動報告
11月5日 研修
玉村町文化センター
●「時局展望」
●「地方議会のデジタル化の意義と課題」



監査
点項目とした。主に関係記録や工事記録写真的閲覧、担当職員への質問を通じて監査を実施した。なお、4つの工事は事業が完了していないため、直近の状況を確認したが、特に問題点はなかった。これらの工事が適法かつ合理的・能率的に行われているか、また経済的に妥当であるかを検証した。さらに、施工及び管理が適切に行われているか、工事監理・監督が適正に実施されているかを重視していなかったため、直近の状況を確認したが、特に問題点はなかった。

配水管更新工事、道路補修工事、月夜野小学校整備工事、用排水路整備工事の調査を行った。これら工事が適法かつ合理的・能率的に行われているか、また経済的に妥当であるかを検証した。さらに、施工及び管理が適切に行われているか、工事監理・監督が適正に実施されているかを重視していなかったため、直近の状況を確認したが、特に問題点はなかった。

問 危機管理について、町はどういう姿勢で取り組んでいるか。

答 町長 町では、危機管理は命を守ることを最優先に、町民の生活と地域社会を守り抜くことを基本姿勢としている。

問 町が所有する施設について、訪問者も職員も安全が担保されるべき。そのためのAED（自動体外式除細動器）の設置状況は。

答 町長 現在、町では、公共施設・観光施設・商業施設・温泉施設、全ての学校・こども園に計54台設置している。

問 現在、いざ必要になった時に器械が使えない等の心配がある。町民を対象とした講習会の開催はあるが、職員に特化した開催は。

答 町長 役場内でも発生しているものと考えている。予防策としては、先ず町側に瑕疵や過失がないよう公平・公正に業務を進めることができ。大切とを考えている。

問 体育施設の効果的・効率的運営

答 町長 体育施設の効果的・効率的な運営に向けて、指定管理者が体育施設の指定管理を行うことができるようにするものであり、最初の取り組みとして今回は月夜野総合体育館に特化されていが、今後運営状況等を見て考へるということ。



月夜野総合体育館：生涯スポーツフェスティバルの様子



石坂 武 議員

町の危機管理への取り組み姿勢は 町長 命を守ることを最優先に取り組む

問 獣害の処理施設建設に向けて、再三の検討を重ね、生物処理施設でいくとの決定が出ているが、最近いきなり広域対応を考えているとの説明があつたが、何故なのか。

答 町長 昨年秋には、利根沼田の課題である処理施設の整備について、合同での整備を行う話が持ち上がった。

問 本日議決頂いた月夜野総合体育館の1件ですが、一律に全施設で指定管理制度を導入するといふ考えはない。運営状況を良く精査し、民間事業者等への指定管理制度を検討していきたいと考えている。

答 教育長 月夜野総合体育館に特化されていが、今後運営状況等を見て考へるということ。



一般質問とは

議員が町の行財政全般にわたって執行機関に疑問点をただし、所信の表明を求めるもの。

執行機関の政治姿勢を明らかにし、それに対する政治責任を明確にさせたり、結果として、現行の政策を変更、是正させあるいは新規の政策を採用せるなどの目的と効果がある。

定例会のみで行われ、現在、みなかみ町議会での一般質問の時間は、一人50分までとなっている。

事前通告一覧

①みなかみ町観光振興計画（観光戦略）更新の必要性を問う	鈴木 美香 すずき のりよし
①町政20周年記念式典を振り返つて	阿部 清 あべ きよし
②除雪機購入に助成金制度の創設を	
③堆肥販売に向けた取り組み	
①物価高騰対策の現状と今後の取り組み	星野 宗央 ほしの かずひさ
②町の財政運営の現状と今後の持続可能性について	牧田 直己 まきた なおき
①町の将来像について	高橋 久美子 たかはし くみこ
②町長の給食費無償化の公約について	茂木 法志 もぎ のりゆき



阿部 清 議員

アーバンベア対策は 町長 人里での誘引物対策が重要

今年はクマの目撃情報が多く寄せられ、人間の生活圏まで拡大している。人里へ下りて来たクマは、人間の生活の中にあら食べ物の味を一旦覚えてしまうと、それを求め頻繁に来るようになり、人身被害のリスクが高まり、積極的な対策を講ずる必要がある。

クマを誘引する原因となる生ごみや、未収穫果実の的確な管理を住民へ呼びかけ誘引防止に努め、より積極的かつ効果的な対策を講じたい。

近年、アーバンベアの存在が目立っている。こうしたクマは人里近くで育ったために、人間の生活音や車の音に慣れ、警戒心が薄れている。人を恐れずに接近するなど、今までの対策は通

用しなくなる。アーバンベア対策は。

人里での誘引物対策が重要であると考え、啓発活動を強化し住民への協力を徹底したい。令和8年度から、人里近くで放置されている柿や栗などの不要果樹伐採に係る経費に補助制度を整備し、ソフト・ハードの両面から対策を推進する。

みなかみ町鳥獣被害防止計画の捕獲計画が示され、ツキノワグマについては捕獲計画は設定しないと書かれている。昨年度、県内の生息推計は2773頭と公表され、生息分布域は1・4倍に拡大し、町内の個体数もかなり増えていると思われる。今後は捕獲計画の対象獣に入れるべきと思うが。

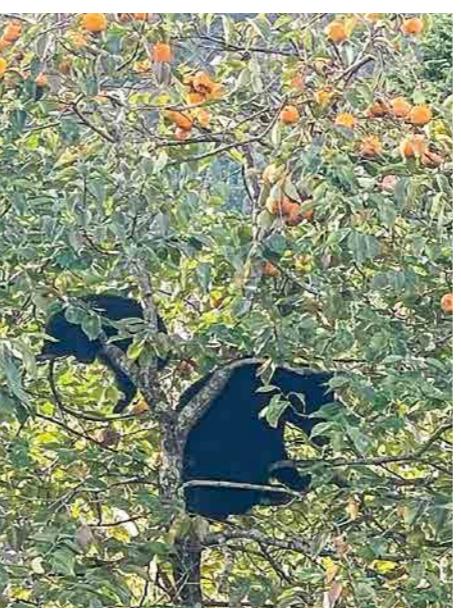
クマについては、県の適正管理計画に目標数値が設定されないため、町も計画数を設定していない。被害防止計画は前年の被害状況や捕獲状況を反映して見直しを行なっている。

獣友会の活動も物価高騰の影響を受け、経済的な負担が生じている。増加する鳥獣被害を減らすためにも、報酬額の引き上げが必要と思うが。

活動費の支給については、令和8年度は増額の考え、今後も町の財政状況を考慮しつつ見直しを検討する。

鳥獣による被害に対応するためには、専門知識のある職員の配置や、新たな人材育成が課題となる。町職員がハンターを兼務するガバメントハンター導入の考えは。

現時点では、導入に向けた具体的な計画はないが、将来的な体制強化のためにも重要な選択肢の一つと捉える。



鈴木 美香 議員

除雪機購入に助成金制度の創設を 町長 情報収集して研究していきたい

の報告兼感謝状の送付などは。

広報誌やHPで概要や実施状況を確認できるため予定をしていない。

町政20周年式典の振り返り

問 会場について悪天候になる可能性は考えていたのか、なぜ屋外だったのか。

答 悪天候の場合は、月夜野総合体育館を想定していた。来場者が少ない移動で観覧できるよう、コンパクトに実施することで経費を抑えた。

問 会場ステージに町章がどこにも見当たらなかつた。首長として、掲げていなかつたというのはどのような考え方か。

答 町民の皆さまが20周年の節目を実感するための象徴として、記念ロゴを全面に掲げる構成が適切であると判断した。

歴代町長や議長に無事20周年記念式典を終えたことへ

答 町長

問 町民の皆さまが20周年の節目を実感するための象徴として、記念ロゴを全面に掲げる構成が適切であると判断した。



除雪機への補助

問 自助・共助・公助の中で、コンパクトに実施することで経費を抑えた。

問 会場ステージに町章がどこにも見当たらなかつた。首長として、掲げていなかつたとい

うのはどのような考え方か。

答 町長

問 町民の皆さまが20周年の節目を実感するための象徴として、記念ロゴを全面に掲げる構成が適切であると判断した。

町政20周年式典の振り返り

問 会場について悪天候になる可能性は考えていたのか、なぜ屋外だったのか。

答 悪天候の場合は、月夜野総合体育館を想定していた。来場者が少ない移動で観覧できるよう、コンパクトに実施することで経費を抑えた。

問 会場ステージに町章がどこにも見当たらなかつた。首長として、掲げていなかつたとい

うのはどのような考え方か。

答 町長

問 町民の皆さまが20周年の節目を実感するための象徴として、記念ロゴを全面に掲げる構成が適切であると判断した。

答 町長

問 町民の皆さまが20周年の節目を実感するための象徴として、記念ロゴを全面に掲げる構成が適切であると判断した。

資源リサイクルセンター

答 豪雪地帯の同類の補助事業の状況等を情報収集し研究している。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつてている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

除雪機への補助

答 共助の部分、「ご近助」という言葉もできている。自宅周辺の除雪作業のついでにご近所、通学路を雪かきをしている方を時折見かける。除雪に対する町民生活の寄り添いの意味と共に助の推進を合わせて、除雪機購入補助事業の創設を。

答 町長

問 現状は。

答 町長

問 地域資源の循環型社会の構築と畜産振興を推進するため、平成17年4月より稼働。平成28年度より食品残さを搬入して堆肥の生産。現在の受け入れは、畜産農

家2軒の牛糞、一般の家庭から出る生ごみ、給食センター、町内のホテル1業者からの食品残さとなつていている。

答 町長

問 販売実績は。

資源リサイクルセンター

答 豊かなまちづくりの基盤をつくる

答 町長

活動報告 総務文教 常任委員会

11月17日 総文委員会レポート

報告 給食センター統合整備事業

令和8年度の当初予算に計上予定だったが、町の総事業費の状況を踏まえ、地方交付税措置が適用される合併特例債の起債枠を確保するため、12月議会定例会の補正予算に上程する予定だと、次のように説明があった。

現在、月夜野学校給食センターでは約900食、新治学校給食センターでは約200食を提供している。今後は統合により1100食の提供を目指し、令和9年4月1日からの利用開始を予定している。

月夜野学校給食センターは通常通り提供するかを検討している。給食費については、無償提供が可能か検討中。アレルギー対応の児童生徒については、弁当持参を基本とし、補助金の支給も検討している。

改修の主な内容は、食物アレルギー児童数増加に対応し、調理全體の効率と安全性を向上させる厨房設備機の新設と更新を行い、作業効率改善と老朽化対応を進め、厨房内照明をLED照明へ更新する。

学校給食の役割は、成長期にある児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスの取れた豊かな食事提供に資するものであり、当委員会としても安心で安全な学校給食の提供を推進し、この事業の動向を注視していく。



月夜野学校給食センター

活動報告 総務文教 常任委員会

12月17日 総文委員会レポート

視察 月夜野小学校・にいはるこども園の給食調理室

12月17日に町内で建設が進められている月夜野小学校およびにいはるこども園の給食調理室を視察した。

月夜野小学校は完成間近であり、大変厳しい工程の中でも工期に間に合うよう関係者が一丸となって取り組んでいる姿に、深い感謝の気持ちを抱いた。

校舎内は非常に明るく、子供達が安心して学びに集中できる温かみのある空間が整えられている。



月夜野小学校



にいはるこども園の給食調理室は、現場で尽力する多くの方々の手で整えられる。改めて感謝申し上げる。

今後も議員の一員として、教育・子育て環境の充実にしっかりと取り組んでいく所存である。

また、にいはるこども園に新設される自園調理方式の給食施設もまもなく完成を迎える。運用が開始される予定である。

年明けから部分引き渡しを受け、1日約130食の給食が提供される見込みである。

衛生管理や安全面に細やかな配慮がなされ、子供達に安心して食事を届けられる施設であると感じた。

こうした環境が整えられるのは、現場で尽力する多くの方々のおかげである。

みなかみ 議会だより(第86号)

活動報告 産業観光 生活環境 常任委員会

11月6日 産観委員会レポート

概要 都市計画について

議論の背景

町の人口減少が進むと2070年には人口約4000人になると試算が示されている。この広大な町を将来にわたり維持していくことへの危機感は、各委員共通する認識である。生活圏の分断や孤立を防ぐとともに、産業・観光の観点から人の流れをどこに集め、どのように町全体へ繋げていくか等、町を俯瞰した戦略が必要であり、本議題を取り上げた。

まとめ

人口が増加してきた時代とは異なり、これから時代は町のかたちを再構築しながら持続可能な姿を目指すべきとの意見が委員から多く出された。用途地域や拠点のあり方、上毛高原駅周辺開発や観光戦略を含め、将来を見据えた議論が必要である。

クマ対策など全11件の議事を議論した。

●町営温泉三峰の湯

三峰の湯は町内唯一の直営温泉施設で、仮設施設のまま33年が経過している。秘境

活動報告 産業観光 生活環境 常任委員会

11月28日 12月5日 産観委員会レポート

視察 町所有の温泉及び給湯施設7カ所の管内視察

視察の背景

町所有の温泉施設及び給湯施設は老朽化が進み、採算性の確保が困難な状況が続いている。維持管理経費が町財政の負担となる中、持続可能な運営の在り方が課題である。

施設の状況確認や管理者との意見交換を通じて、今後の温泉施設の在り方を検討する機会とした。

まとめ

●猿ヶ京温泉給湯施設 指定管理者が利用料を徴収し、権利料を基金に積み立てながら運営しているが、受湯者数の減少により収入増は見込めない状況にある。こうした中、貯湯タンク等の主要設備の老朽化が進み、今後の維持には更新や修繕が必要な段階となっている。

その他

各温泉施設はいずれも町民にとつて大変重要な施設であるのは委員一同強く感じている。一方で、限られた町財源を踏まえ、将来世代を見据えた持続可能な温泉施設の在り方について、より踏み込んだ議論が必要である。

的な魅力を有する一方、老朽化が進み、レジオネラ菌対策として、配管工事や塩素処理等を実施しているなど、維持管理コストは増加している。

●遊神館

農林業振興や観光振興、地域活性化を目的に整備され、本年30周年を迎えた。温泉のほか、地場産品売店やレストラン、カラオケ等を備えた多機能施設であるが、施設規模の大きさや源泉温度が29度と低く、光熱費や老朽化に伴う修繕費など、維持管理負担が大きい。

まとめ

さなざわのテラス、まんてん星の湯、ふれあい交流館、風和の湯（休館中）も視察した。当視察を受け、12月5日（金）の委員会では温泉施設を中心に活発な議論が行われた。

その他

各温泉施設はいずれも町民にとつて大変重要な施設であるのは委員一同強く感じている。一方で、限られた町財源を踏まえ、将来世代を見据えた持続可能な温泉施設の在り方について、より踏み込んだ議論が必要である。

本委員会は、令和7年1月31日から初回の委員会を開始し、慎重に調査を重ねてきた。

今回の調査は、みなかみ町における教育分野での交流事業の現状を把握し、青少年の視野拡大と地域交流促進、地域のニーズに基づいて今後の持続可能な方を総合的に調査研究することによって、今後の発展・継続に向けて事業の必要性を検証することである。そして、必要と考えられる場合には課題や改善策を提案することを目的とした。

調査内容は、台南市との中学生派遺事業および奄美市との青少年交流事業について、交流事業担当課へのヒアリング、関係資料の確認、プログラム詳細の整理、過去実績の収集、事業に参加した生徒や保護者へのヒアリングなど、様々な角度から意見を収集し調査を実施した。



台南市との中学生派遺事業



奄美市との青少年交流事業

奄美市との交流事業では、今後の少子化による児童数の減少により、奄美市とみなかみ町で参加を希望する児童数にばらつきが出ている。

また、継続発展する上では、事業効果の見える化、継続体制の強化が課題として挙げられる。また、台南市との中学生派遺

総合的に両交流事業は、青少年にとって貴重な異文化・自然体験の場であり、地域連携や地元PRにおいても重要な役割を果たしている。また、両交流事業から得られた児童同士の自宅へホームステイを行っている。ホームステイによる交流を通じて得られるものは多いが、そのため双方の参加人数によって参加できない児童がある懸念もあり、今後の地域連携の強化が課題として挙げられる。

奄美市では基本的にペアとなる児童同士の自宅へホームステイを行っている。ホームステイによる交流を通じて得られるものは多いが、そのため双方の参加人数によって参加できない児童がある懸念もあり、今後の地域連携の強化が課題として挙げられる。

今後は、課題を整理し、継続的で効果的な事業展開を図ることが望まれる。



技術を継承する
星野佑一郎さん

淳郎社長

従業員で同級生の
片野真由美さん



まちの匠とは、文化、伝統、自然、生活などの知識や技能、技術を持つ方のことです。
みなかみ町の匠を紹介します。

匠ナンバー
12

喫煙具パイプの匠

深代 淳郎 さん
Fukashiro Atsuo (57歳)



——どんな匠なの

育ったところ

旧新治村（みなかみ町須川）

祖父の三之助さんが創業して95年の歴史ある喫煙具製作所です。国産初の量産ブライヤー（地中海沿岸に生息するツツジ科の植物の根塊）パイプ製造を続けています。熟練の職人の手で、「味わう樂しみ」と「道具としての美しさ」を兼ね備えたパイプを生み出していました。



淳郎社長は、創業100年を節目とするつもりで、あと5年くらいで職人技術の継承を行って、それから少しづつ片づけを始めるつもりと語られました。

深代喫煙具製作所



*現在、工場見学や直売は行っておりません。

——どんな匠なの
育ったところ

——生まれたところ

——次世代へ継承したいこと

父の勉さんの「家業を継ぐな」の言葉通り、工業高校の教員となり、その中でJICAプロジェクト支援の一員としてジャマイカで2年間生活するうちに日本のモノづくりの素晴らしい技術に気づき、帰国後家業を継ぐために修行を始めましたが、ひと通りの作業を習得するのに10年程かかりました。その経験から、パイプ作りには材料選びや微妙な仕上げなど細部へのこだわり箇所にはきりがなく、「まあまあはあっても完璧は生涯ない」と語ります。

——匠になつた経過は

——次世代へ継承したいこと

